旭が丘小学校だより

令和４年１月１３日　第２８号

文責　校長

令和４年 新年あけましておめでとうございます！

令和４年の学校のスタートは大変寒い朝となりました。それにもかかわらず、子どもたちは比較的早い時間に学校へ来て、元気な姿を見せてくれました。お年玉の話やお出かけした話、いとこや親せきと楽しく過ごした話など、聞くといい思い出ができたようです。

令和４年のスタートの日であると同時に、３学期のスタートの日でもあるこの日は、各学級であと３か月の目標を立てたり、係を決めたりする等、見通しを持つ場面が多くありました。担任との関わり、同じクラスの友達との関わりもあと少しです。ご縁を大事にして３学期を乗り切りたいと思います。

引き続き皆様のご理解ご支援を賜りますようお願いします。一緒に頑張りましょう！

「辛」から「幸」へ

私は幼いころから「辛」と「幸」の漢字をよく間違えます。この間違いは未だに起こります。幼少期に間違って覚えたものは、ずっと引きずりますね…。

そこで思い付きました。この二つの漢字は似ていますが、一本横線が入ると違う意味の漢字に変身することに。「辛」いことが続いても、もう一歩、あと一歩あきらめないで頑張った先に、「幸」せや達成感があるのだということに、です。コロナ禍での大変な状況や、子育ての苦労等、学習の定着…なかなかうまくいかないことが私たちの周りにはたくさんです。そんな時、あと一歩（あと一本）と思える二つの漢字の関係性を思い出してみたいと思います。

武者小路実篤の作品に「もう一息」という詩があります。この詩にあるように、簡単にあきらめることなくもう一歩頑張ってみるよう、子どもに話をしていこうと思っています。

「もう一息」　武者小路実篤

もう一息というところで
くたばっては何事もものにならない
もう一息　それをもう一息
それに打ち勝ってもう一息
もうだめだ
それをもう一息
勝利は大変だ　だがもう一息

※上写真は１２月のＡＬＴ交流会

＜ご紹介とお願いです＞

昨年末に、木場公民館寄りの非常階段付近の学校敷地のスペース（下写真）を拡張しました。旭が丘小学校はここ数年で児童数が５０人以上増え、学校の敷地内における児童密度が高くなっています。単純にいいますと混み具合が大きいということです。このことはお子様の安全にもかかわってきます。車両の通行や学童のお迎えをなくしてしまうことはできませんので、学校としては、このように可能な限り敷地内のスペースを確保するようにしています。

そこで保護者の皆様にあらためて下記についてお願いをしたいと思います。お子様の安全のため、是非ともお願いいたします。

① **学校内への車の乗り入れはご遠慮ください。ただしお子様のことで特別に配慮が必要な場合、あるいは怪我等を受けてのお迎えについてはその限りではありません。**非常時は学校からメールで運動場の開放についてお知らせします。お子様の配慮等で何かご相談があれば、担任・教頭宛お知らせください。

② 上記の理由で学校内へ車で入ってこられるときは**最徐行で**お願いします。登下校中にかなりのスピードで出入りがされると非常に危険です。

２学期までの反省から（職員の話し合いで出てきたこと）

２学期の指導について振り返りました。成長〇と課題△の主な内容です。

〇挨拶や授業中の積極性が出てきた。学ぶ姿勢がいい方に変わってきた。

〇家庭学習の習慣、宿題の提出がよくなってきた。

△誰かがやるさ、という雰囲気があり、自主性がもう一歩育っていない。

△言葉遣いが気になる、発した耳にした言葉の相手への影響について考えさせたい。

△ケガや骨折が続く時期があった。登下校や帰宅後の過ごし方について課題がある。

家庭学習の充実や、課題への取組についてはご協力ありがとうございます。課題については今後、継続的に具体的な指導を重ねながら改善していきたいと思っています。

以上を受け、３学期に入った初日に、職員間で学校として重点的に取り組んでほしいこととして、以下について確認しました。

（１）その学年の学びの定着を確かにすること（家庭学習の充実、宿題に提出についても引き続きご支援ください）

（２）あいさつ、ありがとう（職員間で「２Ａ」と言っています）がしっかり伝えられる子を育てること

（３）言葉遣いの指導を確かにすること

（４）ゆるみがないように感染対策やけがの防止を指導・展開していくこと（今後も対策については欠かせません）

（５）子どものアイデアや個性が生きる教育活動をすすめること